

(様式1)

令和7年度 岩手県立北上翔南高等学校 学校評価報告書

校長：千葉勝幸

総合的な評価	生徒それぞれの個性を伸ばしながら、社会の変化に対応し時代を切り拓き、自ら課題を発見し解決に向け主体的に考え行動する能力と、生涯にわたって学び続ける意欲や態度を育成することを目標に各系列ごとに外部連携等特徴を持たせ教育活動を実施し成果をあげている。
--------	---

重点目標	達成指標	自己評価		学校関係者評価	改善方策
		評価項目及び実績等	達成状況		
ア 基本的生活習慣の確立	・年間の欠席率 【2.0%以下】	欠席率 【1.91%】 (転学者・退学者・休学者除く)	○	掲げた数値目標を概ね達成しており、生活指導が適切であったことがわかる。	年間における出欠状況の特徴が年次によって異なり、先を見越した声掛けと指導を徹底していく。
イ キャリア教育を充実し、生徒一人一人の進路希望を実現図る	・大学・短大等への進学者 【24人以上】	大学・短大・高等看護学校への進学者 30名/希望者 33名中 【90.9%(95.2%)】 ( )内は昨年の実績	○	目標数値を達成している。多様な進学先にも対応し、実績をあげている。就職実績は毎年100%を達成しているが、変化する企業の採用姿勢に対応して行って欲しい。	進学に関しては、「個別最適な学び」と「探究学習」の取組や早期からの意識付けを通じて、より高い目標を設定させることにより、さらなる実績の向上に努める
ウ 基礎基本の定着及び学力の向上を図る	・授業がわかると答えた生徒の割合(授業評価) 【72%以上】	授業評価について、授業がわかると答えた生徒の割合 【83.6%(85.9%)】 国・数・英のみの平均 【73.2%(77.6%)】 ( )内は昨年の実績	○	授業評価の結果や参観授業の様子から、1年次から2年次の成長ぶりを感ずる。また、授業がわからない、理解が大変な生徒も一定数いるので、そうした生徒への対応策も検討して欲しい。	ICT機器を活用した授業や教科によっては、習熟度別授業等「個別最適な学び」を推進することにより、一人一人のつまずきにきめ細かに対応してゆく。
エ いじめの未然防止と適切な対処	・年度末において未解決のいじめ事案の件数 【2件以下】	いじめ認定 0件	○	生徒が相談しやすい関係性を維持して欲しい。	生徒が相談をしやすい仕組みと関係づくりに努めると共に、いじめ事案に対して職員間の情報の共有化と時機を逸さない、早期対応を継続して行う。
オ「岩手モデル」による不適切な指導の根絶	・コンプライアンス等に係る職員の研修回数 【11回以上】	15回実施 (不適切指導、交通安全、情報セキュリティ、安全管理等)	○	地域や関係団体の協力を教育活動に役立てると共に、教員の心身の健康の保持を実践して欲しい	時代の変化に適応した、生徒指導観を養えるよう、コーチング等、実践性や効力のある研修内容を模索し、実践していく。